

【地域活動ノート】

第16回薬局管理栄養士研究会の活動報告

——薬局管理栄養士の真価～どのように価値創出すべきか——

藤田智子*・小口淳美*・内山貴雄*・川戸麻紀*・奥寄沙恵*・宮代由佳*・柳岡祐治*
堀由美子**・君羅好史**・松本明世**・真野博**・清水純**・内田博之**

活動の概要

「薬局管理栄養士研究会」は、セルフメディケーションの最前線である保険薬局やドラッグストアに勤務する管理栄養士・栄養士が、情報交換と相互の連携を図ることを目的とし、城西大学薬学部医療栄養学科および城西大学薬学協会の後援により2006年に発足した。城西大学・城西国際大学東京紀尾井町キャンパスに於いて毎年1回の開催を通例とし、2021年には16回目を迎えた。第16回薬局管理栄養士研究会は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、前年同様に集合型開催を見送り、城西大学坂戸キャンパスを配信会場としてオンライン（Zoom）にて開催したので報告する。

キーワード：薬局管理栄養士研究会、管理栄養士、保険薬局、ドラッグストア

第16回薬局管理栄養士研究会は、2021年11月27日（土）14時～17時、「薬局管理栄養士の真価～どのように価値創出すべきか～」を開催テーマとし、情報提供、口頭発表およびグループディスカッションをオンラインで開催した。2回目のオンライン研究会となったが、全国から173名の参加者が集まり、盛会のうちに終えることができた。

プログラムは、本研究会会長小口淳美氏（株式会社フォーラル）より、薬局管理栄養士自らが地域社会において価値創出する必要性などを含めた開会挨拶に始まり、価値創出の一つのあり方として、株式会社スギ薬局菅原正勝様より、特定保健指導の取り組みについて、導入の流れから実施体制などの情報が提供された。口頭発表（7演題）では、それぞれの薬局、ドラッグストア、管理栄養士養成校で行われた事業や取り組みが報告され、続いて行われたグループディスカッションでも、口頭発表の内容をテーマに加え、活発な意見交換が行われた。

第16回は、前年に引き続きオンライン開催であったが、全国各地から薬局管理栄養士・関係者にご参加とご協力をいただき、実施することができた。今後も薬局・ドラッグストアで活躍する管理栄養士を中心に、薬剤師や関連職種、薬局管理栄養士を目指す学生など、様々な方との情報交換や情報収集、互いの交流の場として、活発な研究会になることを願っている。

* 薬局管理栄養士研究会世話人

** 城西大学薬学部医療栄養学科

第16回薬局管理栄養士研究会の情報提供・口頭発表の内容、アンケート結果は以下のとおりである。

<情報提供>

特定保健指導の取り組み；株式会社スギ薬局 ウェルネス統括部 統括部長 菅原 正勝氏

<口頭発表>

演題 1 薬局管理栄養士の直接的利益の創出～有料栄養相談による現状と課題；株式会社パル・オネスト

演題 2 コロナ禍における管理栄養士養成校のICTを活用したメニュー開発の取組；城西大学医療栄養学科

演題 3 薬局管理栄養士の認知度・需要のアンケート調査の報告；認定栄養ケア・ステーション たから薬局東松山店

演題 4 薬剤師と管理栄養士が連携したTRへの取り組み状況と今後の課題；株式会社フォーラル

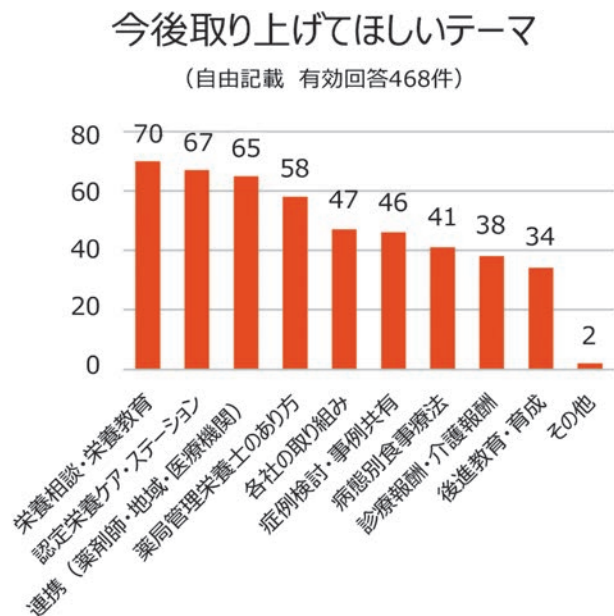
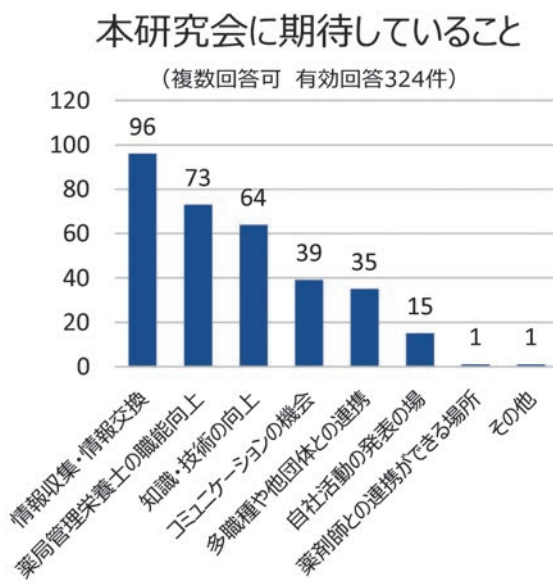
演題 5 食生活チェックシートの活用と管理栄養士からの継続的なアプローチ；株式会社アップルケアネット

演題 6 在宅版 NST!! MNST (Manmaru Nutrition Support Team)；株式会社 hitotofrom まんまる薬局

演題 7 重症化予防の取り組みについて；株式会社スギ薬局

<アンケート結果（一部抜粋）>

参加者が興味関心のあるテーマは、栄養相談・栄養教育、認定栄養ケア・ステーション、多職種連携であり、情報収集・情報交換を期待して参加した方が多かった。今回は、オンラインでの開催であったため、コミュニケーションへの期待は少なかったと推察される。なお、本アンケート調査は、城西大学「人を対象とする生命科学・医学系研究倫理審査委員会」の承認を受けて実施した（許可番号：2021-08）。



薬局管理栄養士が年々増加する中、当研究会が薬局管理栄養士の生涯学習の場として機能するために、専門的知識や技術情報を提供し、参加者同士の意見交換の場を設け、新たな動機づけになるよう志向している。引き続き、アンケート調査による参加者の意見や希望を収集し、現場に必要とされる情報発信に努めていく。